

清流

題 字 : 芳野 充

令和7年4月30日

第100号

発行所 加来不動産(株)

発行者 加来 寛

北九州市小倉南区守恒本町1-12-23

穏やかに

静かに

清流のように

挫折は大きなチャンス

「自己を知り、自己を正す」という言葉がありますが、意味するところは、自分の未熟なところに気づき、それを正して魅力的な人になりましょう、ということです。しかしそうかんたんな話ではありません。

この話をうけて以前のわたしは、「自分を変えなければ」と、そんな思いが強くはたらし、それが重荷となり嫌悪感すら感じていた時期があります。「自己を知り、自己を正す」とは、自分を否定することであり、卑下することとイコールでした。しかし段々と自己否定や卑下するのではなく、できない自分もやさしく包みこみ、それもふくめて成長させ人生を良くしていくことだ、と思えるようになりました。

個人的な見解ですが「自己を知る」というのは、自分の現状把握をする、ということだと思ふのです。それは、自分のイヤだと思ふ言動や考え方、うまくいかない現実を認めるということ。その上で理想の自分像や「こうなりたい」という願望など、ゴールや目的をもつことだと思ひます。つまり、自分の現実と理想のギャップを理解するということではないでしょうか。

「自己を正す」とは、現実と理想のギャップを埋めるためにどんな方法があるのか本や人の話から知識を得て、それを実行に移していくこと。大切なことはあきらめず自分にあつたやり方を模索しながらコツコツ行動を続けることだと思ふのです。

ダイエットに例えると「自己を知る」とは、まず自分が肥満であることを認め、さらに健康を意識し減量したいと思ふこと。

「自己を正す」とは、減量し健康になるために自分にあつた正しい知識を得て行動すること。つまり、食事制限や運動するにしても自分の性格や考え方にあつたやりかたを模索しながらコツコツ行動すること。そうすることです。少しづつ理想の体重に近づいていくことに似ています。

とは言え誰しもつよい意志をもって行動を起し、継続できる人はそう多くないのが現実です。わたしも例外ではありません。しかしわたしが「自己を成長させ、人生をもっと良くしたい」と思ひ行動できるようになつたきっかけが二つあります。

一つ目は、「こうなりたい」と思わせてくれる理想やお手本となる人がまわりに多くいたこと。二つ目は、大きな挫折を味わつたことです。とくに挫折を味わつたことで「こうなりたい」ではなく、「こんなツライ人生はイヤだ」と思つたことが、正しい知識を得て行動する最大のきっかけでした。

とは言えいまでも、自分が思ひ描いているとおりの人生ではありませんし、さまざまな悩みやツライこと頭にくることが多々あります。しかし実は自分にとってうまくいかないことや挫折が、自分の成長を後押ししてくれるチャンスにちがいない、そう思つて一歩ずつ前に進んでいます。

加来 寛

